

佐賀大学医学部附属
看護学教育研究支援センター
—地域の看護職の質向上をめざして—

平成 30 年度 年報

Contents

平成 30 年度看護教育研究支援センター事業報告

教育研究実践支援部門	・・・・・・・・・・	1
人事交流支援部門	・・・・・・・・・・	2
国際交流支援部門	・・・・・・・・・・	3
センター支援を受けて（体験談）	・・・・・・・・・・	4
センター関連の研究業績	・・・・・・・・・・	8

教育研究実践支援部門は、部門責任者を含め、医学部看護学科教員 16 名と佐賀大学医学部附属病院看護師 2 名が担当している。本部門では、佐賀県内で教育・指導、研究、実践に携わっている看護職を対象に、研究支援と継続教育を行った。また、研修会等の講師として、地域の看護職のレベルアップに貢献した。平成 30 年度の支援状況について報告する。

(1) 継続教育としての実践レベルアップ研修

継続教育プログラムでは、看護師のための臨床に役立つ解剖学スキルアップ講座（平成 30 年 7 月 24 日）に 8 名参加した。九州山口遺伝看護・遺伝カウンセリング研究会（平成 30 年 8 月 4 日）に 59 名参加した。小児在宅看護研修会（平成 30 年 10 月 7 日）に 75 名が参加した。「産後腱鞘炎予防講座」に 30 名（2019 年 3 月 17 日）参加した。また、佐賀県糖尿病コーディネート看護師の育成研修（平成 30 年 11 月 17 日）では、7 名の糖尿病コーディネート看護師を育成した。

看護部主催でトピックス研修とスキルアップ研修が行われた。「平成 30 年度トピックス研修」は 9 回開催され 1094 名が参加した。「平成 30 年度スキルアップ研修」は 11 回開催され 187 名が参加し、そのうち院外から 7 名が参加した。

さらに現場の求めに応じて、看護学科の教員や医学部附属病院看護部の看護師が病院や学校、看護協会、保健師会、助産師会などへ出向き、研修や講演などの講師を務めている。今年度の講師の派遣は 143 件となった。

平成 28 年、29 年度に佐賀県健康福祉部と連携し開発した 4 つの自己学習支援（e-learning）教材「感染対策」「フィジカルアセスメント」「心肺停止状態への対応」「脳神経系異変への対応」を県内の小規模病院や診療所で働く看護職に向け配信している。

(2) 研究支援

研究支援については、佐賀大学付属図書館の協力のもとで、申請者が研究に必要な文献を活用できる環境を継続して整えた。研究支援の申請があれば、申請目的に応じて、その分野に最もふさわしい教員を決定し、研究計画書の作成から学会等での発表まで、マンツーマンで指導している。

平成 28 年度からの継続支援 4 件、平成 29 年度からの継続支援 19 件、平成 30 年度の新規申請 2 件、合計 24 件に対応した。申請施設数は、平成 28 年度および平成 29 年度からの継続分は 6 施設、平成 30 年度は 2 施設であった。研究支援のうち、全国規模の学会発表 6 件、地方会での学会発表 4 件であった（平成 30 年 1 月～12 月）。

人事交流支援部門は、部門責任者を含めて医学部看護学科教員 8 名と佐賀大学附属病院看護部看護師 1 名の合計 9 名が担当している。本部門では、看護職者相互のキャリア向上を目指して、看護学科・地域の病院・行政機関の間での人事交流を支援している。平成 30 年度は、矢ヶ部医院の看護師 5 名、今村病院の看護師 9 名と本学附属病院看護部との人事交流を行った。

矢ヶ部医院、今村病院ともに、附属病院とは日頃から、地域の基幹病院とかかりつけ医として病診連携の関係にあり、互いの協力体制が求められる。互いの強みを生かしながら、地域の医療体制を整えていくうえで、今回の交流は貴重な情報共有や組織強化の機会になった。

医療法人純伸会 矢ヶ部医院との人事交流

交流者名： 夏秋綾子、野田加代、福田民江、西村裕美、内田亜希子

期 間： 平成 30 年 7 月 1 日～平成 31 年 1 月 31 日

場 所： 佐賀大学医学部附属病院 肝臓・糖尿病内分泌内科

目 的： 糖尿病内分泌内科の診療カンファレンスに参加し、糖尿病内分泌疾患の看護について学ぶ。

成 果： 多様な症例のカンファレンスに参加することで、最新の糖尿病内分泌疾患の治療方法について理解を深め、さらに、多職種連携の在り方について学ぶことができた。

医療法人如水会 今村病院との人事交流

交流者名： 近藤和治、大坪利恵、坂本知子、中妻理江、林田龍一、権藤照美
江崎栄子、竹内清子、毛井由恵

期 間： 平成 31 年 2 月 5 日、平成 31 年 2 月 7 日

場 所： 佐賀大学医学部附属病院

看護部、外来、EICU・ECU、病棟、手術部、材料部
救急救命センター、地域医療連携室

目 的： それぞれの部署における、管理・運営・スタッフ教育について学ぶ。

成 果： 附属病院での、それぞれの部署の特徴に応じた、組織運営について見学研修を行い、自施設の課題や実行可能な改善案を見出すことができた。

国際交流支援部門は、部門責任者を含めて、医学部看護学科教員4名と佐賀大学医学部附属病院看護部看護師1名の合計5名が担当している。平成27年2月に、看護職の国際交流を推進するために副部門責任者を置き、さらに支援の内容によっては、他部門の教員の協力を得て、支援を行う体制を取っている。

本部門では、看護職や看護学生の国際交流の支援、国際医療協力活動への看護職の派遣などを実施している。以下に、平成30年度の主な活動を報告する。

(1) 交換留学支援

平成30年7月16日～7月25日に、台湾の輔仁カトリック大学看護学部看護学科2年生4名が佐賀大学医学部を訪問し、夏季交換留学を実施した。(日程表参照)

また、平成30年8月20日～8月27日には、佐賀大学から看護学科4年生2名、3年生2名と教員1名が、台湾の輔仁カトリック大学および関連病院を訪問して、有意義な研修を実施した。

Summer Exchange Program 2018 for FJU nursing students

DATE	Schedule (Lectures)
7/16(Mon)	Arrival to Fukuoka Airport: Arrival to the Hotel in Fukuoka City
7/17(Tue)	AM 1) Arrival to Saga University: 10 : 00 2) Orientation of Saga University and Introduction of FJU students. PM Visiting University Hospital 3) Visit of Dean Hara (15:00-15:20) Visit of Director Fuzimitsu (Head Nurse of the Univ. Hospital) 4) Visiting Univ. Hospital Wards, ECU, and Doctor Helicopter.
7/18(Wed)	AM 1) Disaster Nursing Lecture 2) START Triage Exercise PM 3) Lecture of home care nursing in Japan 4) Visiting the Nursing small-scale multi-functional home care, Accompanying a visiting nurse
7/19(Thu)	AM 1-2) Microscope Histology Exercise PM 3-4) Visit of Service Center for psychiatric patients. (Community care of psychiatry nursing)
7/20(Fri)	AM 1) International Disaster Relief (Lecture and exercise) 2) System of the DMAT (Disaster Medical Assistance Team) Lecture PM 3) Visiting University Hospital Wards (ICU/CCU) 4) Summary of the lectures of summer exchange program
7/21(Sat)	Saga University Museum, Saga Prefectural Museum, Saga Castle visiting
7/22(Sun)	Study of History and Culture in Saga Area, Sightseeing etc.

7/23(Mon)	AM: Disaster Nursing Education (1) PM: Medical and Nursing System in Japan and Taiwan (Presentation)
7/24(Tue)	AM: Disaster Nursing Education (2) PM: Free time, and Preparation for Departure.
7/25(Wed)	10 : 00 Departure from Fukuoka Airport

(2) 看護教員の海外研修に対する支援

平成 30 年 4 月 23 日～5 月 9 日に、大学院生 1 名（看護学修士課程 2 年生・看護師）1 名のスリランカにおける海外医療活動参加を支援した。この海外派遣は、Pacific partnership 2018 という海外支援プロジェクトの参加によるものである。（詳細は、参加者の寄稿記事をご参照ください。）

(3) 海外で勤務する看護師に対する研修の支援

平成 31 年 3 月 19～20 日の 2 日間にわたり、ブラジルのアマゾニア病院で勤務する日本人看護師 1 名に対して、佐賀大学医学部附属病院・中央手術部および中央滅菌材料部での研修支援を実施した。看護技術の海外への普及に役立つ有意義な研修が実施できた。

センター支援を受けて（体験談）

研究支援を受けて

佐賀大学医学部附属病院
坂井 睦美

今回、内服自己管理患者に対する看護師の服薬指導内容を明らかにする目的で、「内服自己管理患者に対する看護師の服薬指導内容の実態」のテーマで看護研究を行いました。

初めて質的研究を行うことになり、研究方法やデータの分析など分からないことが多く不安を抱いていました。そこで看護学教育研究支援センターを利用し、担当教員から月 1～2 回マンツーマンの指導を受け看護研究を進めていきました。研究者の思いを大切にしてもらい、研究目的から外れそうになった時には道標となってもらいました。疑問点については丁寧な指導により解決でき看護研究の内容を深められ、ポスター作成も手助けしてもらいながら平成 30 年第 49 回日本看護協会慢性期看護で発表することができました。この看護研究の結果を活かし内服自己管理患者に対する服薬指導が充実できるような取り組みも始められ、看護研究が看護に還元されていると感じています。

看護学教育研究支援センターを利用したことで疑問点や不安を相談でき、的確な助言と支援により不安も軽減し、挫けることなく最後までやり遂げることができました。また看護研究の楽しさも感じることができました。これからも看護研究を継続していくとともに、他の看護師にも看護研究に興味を持ってもらえるような関わりも考えていきたいと思えます。

輔仁カトリック大学医学部との夏季交換留学プログラムに参加して

佐賀大学医学部看護学科 4年

近藤 史織

私は、平成30年8月20日～27日、輔仁カトリック大学の関連病院である新光吳火獅紀念醫院（台北市）における短期留学プログラムに参加させていただきました。今回は新光吳火獅紀念醫院の病棟見学を中心に、CCCシステムなど新しい電子カルテのシステムや医療安全の管理状況、リハビリテーション、訪問看護、退院カンファレンスについて学びました。この体験を通し、台湾における看護では新しい方法を積極的に取り入れ、急速な発展を遂げていることを体感しました。また、台湾には多様な文化を受け入れる価値観があるのではないかと考えました。さらに、日本の看護の良さや課題についても考察することができました。

また、今回の留学ではそれぞれの国の文化や価値観を認め、尊重し合うことが互いの理解を深めることにつながるということを強く実感しました。今後、グローバル化は更に進み、多様な価値観や背景を持つ患者へ看護を提供し、医療従事者と協働することが求められると考えます。そのため、今回学んだ多様な価値観を認め合うということは今後より重要になるのではないかと考えました。また台湾と日本では、患者中心の医療・看護を提供するという根本的な概念や少子高齢化という社会背景など、似ている点も多くみられましたが、制度などに関して異なっている点も多かったです。これらのことを踏まえて他国間で意見を交換し合い、優れた点を取り入れ合うということは今後医療・看護を発展させていくうえで重要であると感じました。

最後になりましたが、今回の留学に多大なご支援をいただきました看護学教育研究支援センター（国際交流支援部門）の皆様には厚くお礼申し上げます。今回の留学での学びを活かし、4月から国際医療の発展に貢献できる看護師になれるよう尽力致します。

Pacific Partnership 2018 in Sri Lanka に参加して

佐賀大学大学院医学系研究科
看護学修士課程 野中良恵

2018年4月23日からの17日間、スリランカ東海岸北部のトリンコマリーでの活動に参加しました。初の海外活動で不安もありましたが、それ以上に楽しみでした。

今回は、アメリカ海軍保有の病床数1000を誇る病院船 Mercy での活動でした。日本チームの看護師8名（自衛隊5名・NGO3名）は、ICU、CASREC（初療室）、MSU（病棟）の3部署に振り分けられ、私は、米軍の看護師10名、カナダ軍看護師1名、米軍コマン（看護助手と准看護師の中間のような職種）25名が在籍する手術前後のケアユニットのような病棟（80床）に配属されました。

勤務は2交代制でした。そう聞くと、日勤が8時間、夜勤が16時間の日本の勤務体制を思い浮かべるでしょうが、日勤が7:00-19:00、夜勤が19:00-7:00と、きっちり同じ時間働く体制で、日本との違いに驚きました。

病棟勤務の他、船外での CHE(医療支援活動)や Training Symposium(教育活動)、COMREL(文化交流)などにも参加しました。CHEではバイタルサイン測定などを、Training Symposiumでは成人のBLS指導を、COMRELではバレーボールを行いました。

トリンコマリーは、2009年の内戦終結まで観光客の立ち入りが禁止されていました。26年間の内戦で多くの命が失われ、辛い思いをされた方も多かったようです。歴史を知り現地で活動することで、複雑な思いが湧きあがりました。

活動中、スリランカ海軍やスリランカの医学生と行動を共にすることが多かったのですが、語学力に乏しい私に「何でも聞いて」と、とても親切にしてくださいました。

ここには書き尽くせないほど多くのことを学び、これからの人生の方向性を決める活動でした。今後は、国内だけではなく海外でも、災害や紛争など他にも様々なことで大変な思いをされた方が、さらに辛い思いをすることが無いように、少しでもお役にたてるように、尽力していきたいと思います。

最後に、看護学教育研究支援センター（国際交流支援部門）の皆様から御支援をいただいたことに心より感謝申し上げます。



病院船内の病棟にて他国の医師や看護師とともに記念撮影（筆者は、向かって左端）

人事交流を終えて

矢ヶ部医院 西村裕美

佐賀大学医学部附属病院（糖尿病内分泌内科）のカンファレンスを見学し、貴重な体験をさせていただきました。自分自身が、新人看護師であり、正直、内容は難しいこともありました。しかし、ひとりの患者さんを多職種でサポートし、改善に向かうように、真剣に意見交換し治療方針が立てられており、非常に勉強になりました。

カンファレンスに参加した後、「糖尿病患者さんのサポートをします」という旨のポスターや問診票を作成し、まずは患者さんの情報を得ることから取り組んでいます。また、当院でも多職種カンファレンスを通して情報を共有し、患者の療養行動をサポートしていきたいと思います。

人事交流を終えて

今村病院 近藤和治 他

今回、佐賀大学医学部附属病院の看護部において、見学型の研修を行いました。看護管理室、外科系病棟、内科系病棟、外来、手術部、救急救命センターなど様々な部署で研修を行いました。一日の病棟業務に沿って研修をする中で、自施設での看護体制や業務において改善が必要な点、直ちに取り入れたい点、同時に、自施設の強みなど、様々な発見ができました。特に、スタッフ同士の言葉遣いの丁寧さや互いを尊重し合う姿勢などは、職場の人間関係の構築に役立っていると感じました。

今回の研修を通して、自施設は地域に密着した救急病院であり、ケアミックス型であることや、入院の受け入れを原則拒否しない方針が強みであると感じました。今後は、人材育成・人材確保、入退院支援を強化し、看護の質の向上に取り組みたいです。

センター関連の研究業績

学会発表

1. 川頭幸子, 太田未希, 大嶋奈麻美, 松本眞由美 (独立行政法人 国立病院機構 佐賀病院): 児の睡眠 - 覚醒状態とケアのあり方について ~看護師の意識と病棟内の現状把握~. 第 72 回国立病院総合医学会. 2018.11.9-10. 第 72 回国立病院総合医学会プログラム集, 127
【研究支援: 鈴木智恵子】
2. 菊池新一朗, 永尾勇, 生島節子, 古野貴臣 (独立行政法人 国立病院機構 肥前精神医療センター): 精神科基幹病院で勤務する看護師の病床機能別バーンアウトリスクおよび SOC の比較. 第 49 回日本看護学会 - 看護管理 - 学術集会. 2018.8.9-10. 第 49 回日本看護学会 - 看護管理 - 学術集会, 抄録集, 100
【研究支援: 古野貴臣】
3. 楠本祐輔, 堤田悟士 (独立行政法人 国立病院機構 肥前精神医療センター): 強度行動障害を伴う重度知的障害児 (者) 病棟に勤務する看護師の感情労働の特徴に関する実態調査. 第 49 回日本看護学会 - 精神看護 - 学術集会. 2018.7.19-20. 第 49 回日本看護学会 - 精神看護 - 学術集会抄録集, 108
【研究支援: 藤本裕二】
4. 坂井睦美, 三瀬章子, 副島敬三, 江口由美子 (佐賀大学医学部附属病院): 内服自己管理者患者に対する看護師の説明内容の実態. 第 49 回日本看護学会 - 慢性期看護 - 学術集会. 2018.9.27-28. 第 49 回 日本看護学会 - 慢性期看護 - 学術集会抄録集, 175
【研究支援: 熊谷有記】
5. 中山アツ子, 森文子, 岡田世志美, 村久保雅孝 (独立行政法人 国立病院機構 肥前精神医療センター): 精神科単科病院と総合病院 (大学病院) の精神科看護における職場ストレスの差異に関する研究. 第 25 回日本精神科看護専門学術集会. 2018.10.26-27. 第 25 回日本精神科看護専門学術集会プログラム・抄録集, 179
【研究支援: 村久保雅孝】
6. 米田伸一郎, 眞崎崇史, 益田和利, 大迫充江 (独立行政法人 国立病院機構 肥前精神医療センター): 医療観察法病棟看護師の認知機能の知識と認知機能を意識した看護援助の視点の変化~認知矯正両方 NEAR を通して~. 第 72 回国立病院総合医学会. 2018.11.9-10. 第 72 回国立病院総合医学会プログラム集
【研究支援: 藤本裕二】

7. 太田光佳, 重常一代, 松竹晃司 (独立行政法人 国立病院機構 佐賀病院): ATP (アデノシン三リン酸) 値を用いた点滴準備台の汚染状況と清拭方法の検討. 日本医療マネジメント学会第 17 回九州・山口連合大会. 2018.12.7. 日本医療マネジメント学会第 17 回九州・山口連合大会プログラム・抄録集, 128
【研究支援: 平原直子】
8. 山口友菜, 重松伽奈子, 佐藤歩美 (独立行政法人 国立病院機構 佐賀病院): 分娩直接介助助産師のゴグルへの血液・体液曝露実態の提示による感染対策行動の変化. 第 22 回佐賀母性衛生学会学術集会. 2018,6,9. 第 22 回佐賀母性衛生学会学術集会一般演題抄録集, 1
【研究支援: 中河亜紀】
9. 吉井雅浩, 河野圭悟 (佐賀大学医学部附属病院): 集中治療室に配置転換した看護師の心境の変化と思い～集中治療室に移動者に向けた教育支援体制の確立を目指して～. 第 2 回日本集中治療医学会九州支部学術集会. 2018,7,7. 第 2 回日本集中治療医学会九州支部学術集会抄録集, 43
【研究支援: 福山由美】
10. 吉田光司, 濱恵, 山口栄一郎, 豆田敬子 (独立行政法人 国立病院機構 肥前精神医療センター): アルコール依存症患者の骨粗鬆症と健康の意識について. 第 30 回九州アルコール関連問題学会. 2018, 3, 16-17. 第 30 回九州アルコール関連問題学会 (長崎大会) 抄録集, 32
【研究支援: 藤本裕二】

平成 30 年度年報

佐賀大学医学部附属看護学教育研究支援センター

—地域の看護職の質向上をめざして—

平成 31 年 3 月 31 日発行

発行者 佐賀大学医学部附属看護学教育研究支援センター

〒 849-8501 佐賀市鍋島 5-1-1

発行責任者: センター長 長家智子

制作 佐賀大学医学部附属 看護学教育研究支援センター